

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念を考え決定。玄関、事務所、ユニット内に掲示し実践に向けて取り組んでいる。	事業所の理念は開設時に全職員で話し合っ決めており、事業所内各所に掲示している。管理者は、研修の時などに職員と理念を振り返る機会を持ち、共有と実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のまつりに参加したり獅子舞に来てもらい楽しく交流している。75歳以上1人暮らし、老人クラブの方と行事に参加している。	地域のお祭りへの参加やボランティアの訪問などの機会を通じて、地域の方々と交流している。町内会にユニットごとに加入しており、町内会長に運営推進会議への参加を要請している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア団体、施設見学等を柔軟に受け入れ認知症について理解していただけるようその都度説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し現状報告をしている。各関係者からの意見、要望を確認しサービス向上につなげている。	会議は2ヶ月に1回開催している。町内会長には参加を要請しているが、3ヶ月ごとに交代されるため参加いただくことが難しく、地域代表者として民生委員の参加を得ている。利用者や家族の参加も得ている。ホームの現状報告の後、各委員から意見や要望を聞き、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者(地域の行政センター)に会議へ出席していただけるよう要望しているが、今現在は多忙との事で実現できていない。市の介護保険課の担当者とは、議事録や電話などで状況を伝えている。	市の担当者である行政サービスセンター職員に運営推進会議への出席を要望しているが、現在は実現していない。市の介護保険課とはその都度連絡ややり取りをしている。	市役所の介護保険係担当職員とはやり取りできているので、地元行政サービスセンターへ市役所を通じて働きかけ、より身近な所での相談や協力などができるようさらなる連携強化に期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初職員研修を行い何が身体拘束なのか理解を深めた。日中は玄関施錠も行っていない。又暖かい日は居室やホール窓を開け開放的な雰囲気になっている。	身体拘束を行わないことを基本とし、拘束のないケアを実践している。また、日中は玄関の施錠も実施していない。管理者は、言葉による拘束にも言及して職員を指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設当初職員研修を行い何が虐待なのか理解を深めた。虐待のない穏やかな生活が送れるよう心掛けている。	研修では具体的な例を挙げ虐待について理解を深めている。管理者は、利用者、職員それぞれの様子を見ながら不適切なケアがないよう気を配り、職員に対して必要な指導を適切なタイミングで行うよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設時職員研修会で学んだが、まだ職員全体での理解には至っていない。現在1名の方が、成年後見制度を活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際は、利用者・家族に対し十分説明を行い疑問点などを尋ね、理解を得てもらえるよう心がけている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時一緒に話す時間を設け入居者、家族の意見、要望を引き出すよう工夫を行っている。問題と感ずる事項に関しては、ユニット会議などで共有し改善につなげている。	家族とは日常的に電話等で連絡を取るほか、面会時などをとらえて直接コミュニケーションを図りながら意見や要望を聞いている。把握した意見についてはユニット会議等で対応策を話し合い、事業運営に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットでの定例会を開催し意見等を出し合い所長へ随時文書で報告している。	毎月のユニット会議で職員の意見を募り、法人内の会議で随時報告して、職員の意見を事業運営に反映させる仕組みがある。会議では職員が活発に意見交換できるような雰囲気づくりを心がけている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に助成を行いキャリアアップを推進している。勤務の希望には柔軟に対応している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内研修会が実施されている。島内で行われている研修を職員に勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時島内の隣接しているグループホームに研修に行かせていただいた。今後は勉強会等でサービスの向上に努めていきたい。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に生活状況の把握に努める共に個々の意見を傾聴し不安や混乱を和らげるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係者に気軽に来所、相談等がしてもらえるよう努めている。又年1回は接遇マナー研修を受けサービスの向上を図っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階で家族や在宅ケアマネジャーから確認し本人にあった支援に努めた。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で食事作り、掃除、買い物、畑仕事等を利用者と一緒に行い家族的関係作りを図っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に月1回のお便りを出して利用者の様子をお知らせしている。又必要時には電話を掛けたり来所していただきご家族との関係を保っている。	家族には通院の対応をしてもらうほか、頻繁に面会に来てもらったり、帰宅要求の強い方の自宅へ戻る機会を設けてもらうなど、協力して本人を支援している。面会の少ない市外在住の家族へは写真入りで近況を便りにして送付するなど、疎遠にならないよう努めている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人が来所し気楽に会話したりできるような雰囲気作りに努め関係が保てるよう支援を行っている。又地域の方々に来ていただき交流も図っている。	様々な方の協力を得て、利用者と地域との関わりが途絶えないよう努めている。具体的には、詩吟の会の方が来てくれたり、寿司職人だった方を寿司屋へお連れするなどの取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプをしたり夜は晩酌をしながら若かった頃の思い出話をし利用者同士で盛り上がっている場面がみられる。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在該当者がいない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、会話の中で本人の希望や思いを把握するよう努めている。	日常の触れ合いのなかから利用者の思いや意向を引き出し、記録に残して職員間で情報共有する仕組みになっており、会議等で随時検討して本人本位に対応できるよう努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族、在宅ケアマネジャーから情報を収集し本人の生活スタイルを大きく変えないように努めている。	入居時の情報収集はもとより、入居後も家族の面会時や電話連絡の折りにいろいろと話を聞いて情報収集に努めている。利用者本人からも都度話を聞きながらサービス提供を進めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、バイタル測定、連絡ノートを活用し職員間で随時情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会で利用者サービス担当者会議を開催し介護計画書の見直しとモニタリング等を実施。内容の充実を図っている。	利用者一人ひとりの担当職員を決め、その職員が中心となってアセスメントを実施している。アセスメントは、MDS方式とセンター方式とを試験的に併用している。毎月サービス担当者会議を開催し、計画のモニタリングと見直しをしている。	介護計画書作成にあたって、本人・家族との話し合いの機会がなく、意向確認も十分とはいえない。計画見直しの際には可能な範囲で家族にも参加を働きかけ、意向を確認するとともに計画へ反映させ、本人本位の介護計画の作成を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡ノートを参考に又「私の基本情報シート」を個々に作成し介護計画書の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や内服薬の受け取り、生活必需品の購入、美容等の支援を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に本人馴染みのお店に出かける機会は無かったが地域老人クラブとの交流やボランティア活用を図るよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診、介護認定更新時受診又利用者の状況に応じて随時かかりつけ医院と連携を図っている。又情報提供も書面にて行っている。	入居前のかかりつけ医への受診を継続することを基本としているが、7割の方が協力医療機関を希望し受診している。受診付添いは家族による対応を基本としているが、必要に応じて事業所でも支援をしている。予防接種は協力医療機関の医師から往診により実施してもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護体制がなく該当なし。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	具体的な事例は今現在発生していない。総合病院との関係作りは不足している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	具体的な事例は今現在発生していないが施設としての考え等は家族に説明を行いご家族から理解を得られるようにしている。又特養への入所手続きの代行や相談等行っている。	入居契約時に口頭で本人・家族と話し合い事業所の方針を理解してもらっている。	口頭での話し合いに留まっているが、今現在の事業所としての方針を明文化して明確なかたちでの提示し、お互いが納得できるよう十分な話し合いがなされることを期待したい。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って職員研修を行っている。	急変や事故発生時の対応はマニュアル化されており、実際に必要になればマニュアルに沿って対応することとなっている。近隣地域へは事業所にAEDがあることをアナウンスしている。	マニュアルは整備されているが、実際の場面で職員が初期対応を的確に行うには日頃からの訓練が不可欠である。消防署が行う救急救命講習や急変や事故など実際の状況を想定した応急手当の訓練を定期的に行い、職員の実践力の向上を図ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災計画を立て消防署の指導の元、避難訓練、避難訓練を実施している。	火災を想定した避難訓練を実施しており、次回訓練では夜間を想定して実施する予定になっている。地区の防災会へ参加予定で消防団へも加入を検討している。	地区の消防団や防災会へ加入予定であるが、海岸に近い住宅街でもあることから、地域ぐるみで地震や津波を想定した訓練を実施するなど地域との協力体制を構築し災害への備えを充実することが望まれる。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生経験の大先輩である事を心がけその人に合った対応、言葉かけを行っている。	利用者は人生の先輩であることを認識し、利用者一人ひとりに合わせた声かけ、プライバシーに配慮した対応に事業所全体で取り組んでいる。特に排泄に関することにはプライバシーの配慮を徹底しており、実際に丁寧な言葉かけが行われていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の程度により希望を聞き取るには難しい面はあるが食事メニューや入浴の決定、散歩、外出等自分で決めて頂き、なるべくに意向に添えるように対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に応じて入居者の様子や希望を聞きながら対応している。しかし散歩やドライブに関しては内容を説明しなるべく全員の参加を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域性もあり慣れ親しんだ美容院へ通う事は職員体制もあり困難だが近隣の美容師が施設に来て定期的に髪の手入れをしている。又衣類も季節、色合い等のアドバイスをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、盛り付け、配膳、後片付け、食器洗い、茶碗拭きを手伝って頂いている。又中庭の畑に季節の野菜を作り食卓に出している。	調理の準備や後片付けなど、利用者一人ひとりができる範囲で一緒に行っている。利用者と一緒におやつを手作りしたり、毎月外食を取り入れるなどして食事が楽しみになるよう工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜が多い献立とし毎回摂取量をチェックしている。水分量摂取量が少ない方には果物やゼリー等で調整している。又晩酌を希望している方には個別支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の歯磨き、洗浄、うがいを支援し夕食後は義歯消毒を実施、清潔に配慮している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中8人が自力で排泄している。1人の方も時間誘導を行いトイレで排泄していただけるよう支援している。	職員は利用者の排泄パターンの把握に努め、一人ひとりの状態に合わせて声をかけたトイレへ誘導するなど自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心がけ、身体を動かす機会を設け散歩、午前、午後の体操を実施している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制の事もあり1日置きに入浴を実施している。しかし希望があれば柔軟な対応を行っている。	基本的に入浴は1日おきの予定としているが、利用者の希望があれば随時入浴してもらっている。入浴の順番なども、その日その時の利用者の希望・状態に合わせて決めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに任せ昼寝や就寝をしていただいている。居室の室温調整には特に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理を行い服薬時は大声で職員間でダブルチェックを行っている。用法、用量に関しては薬局からの説明書を個々に確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて調理、配膳、食器洗い、掃除等の役割分担をお願いしている。地域のまつり、行事を見学したりドライブ、外食を定期的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物に同行する、美容院に出かけたりの支援を行っている。又花見や地域のまつりを見に出かける又地域の方の畑で芋堀をさせてもらう等協力をしてもらっている。	利用者一人ひとりの希望により食材の買出しや散歩、ドライブ、行きつけの美容院などへ出かけている。また、全員で外食に出かける機会も設けている。「家に帰りたい」等、急な外出の希望があった際にも直ぐに対応できるよう可能な限り体制を整えて支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務室金庫にて管理している。希望があれば買い物で体験してもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯に配慮し本人の希望があれば電話は自由に使用してもらっている。又年賀状書きの支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各食道のテーブル、洗面所、出入り口には季節の花を飾っている。又12月からはクリスマスツリーを飾り季節感を感じていただけるようにしている。	玄関やリビングは窓も大きく明るい雰囲気である。リビングの窓からは利用者と職員が一緒に作っている畑や隣接する公園の緑が見え、季節の移り変わりが楽しめる。リビングには畳敷きの居間もあり、花や季節感のあるものを飾るなどしてゆったりと過ごせる空間を演出している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食道兼ホールにテーブル2ヶ所と畳部屋を自由に使えるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのタンスやベッド、テレビ、写真等を設置してもらい居心地良く過ごしてもらえるよう対応している。	入居時に使い慣れた物を持ち込んでもらって、自宅での生活環境を再現するように努力している。入居後にホームで提供した物や写真なども上手に取り入れ、その人らしい居室作りがなされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにしてあり個所、個所には手すりを設置し転倒防止に努めている。トイレも各居室の近くに3ヶ所設け負担なく使用してもらえるよう工夫配慮している。		